

2018年9月

東京オリンピック・パラリンピック開催に関する 千葉県民の意識調査結果

株式会社ちばぎん総合研究所
代表取締役 水野 創

東京オリンピック・パラリンピック（以下、オリ・パラ）開幕まで残り2年を切り、競技スケジュールの大枠や聖火リレー日程が決定したほか、9月12日には都市ボランティア、26日には大会ボランティアの応募受付が開始となるなど、開催機運が徐々に高まりつつある。そこで、千葉県民の東京オリ・パラに対する現時点の意識を明らかにするため、アンケート調査を実施した。

《結果要旨》

- 県民の県内オリ・パラ開催の認知度は8割と高い。もっとも、具体的な競技名の認知度や観戦意向は低く、県民全体への周知と機運醸成にさらに注力する必要がある。
- 県内開催8競技の認知度は、サーフィンが突出して高い一方、その他7競技の認知度は低い。とりわけ、パラ競技の認知度の低さが目立つ。
- 千葉市・一宮町における住民の競技開催地の認知度も5割に止まる。住んでいる市町がホストタウンであることを認知している住民の割合は1割程度とさらに低い。
- 競技観戦意向はオリンピック競技で4割、パラリンピック競技で3割に止まる。
- ボランティア募集の認知度は3割。
- オリ・パラ開催後のレガシーに期待する人は全体の7割で、スポーツの振興や交通インフラの整備などに対する期待が多い。一方でレガシーに期待していない人も3割いる。

1. 調査概要

- ◇ 実施時期：2018年8月9日～8月16日
- ◇ 調査手法：インターネットを介したWEBアンケート調査
- ◇ 調査対象：千葉県在住の15歳以上の男女
- ◇ サンプル数：1,000人
- ◇ 回答者の県内市町村別居住地

		回答数(人)	割合(%)
開催地	千葉市	80	8.0
	一宮町	7	0.7
ホストタウン	市川市	40	4.0
	船橋市	40	4.0
	館山市	40	4.0
	松戸市	40	4.0
	佐倉市	40	4.0
	成田市	40	4.0
	印西市	40	4.0
	旭市	40	4.0
	市原市	40	4.0
	流山市	40	4.0
	浦安市	40	4.0
	山武市	40	4.0
	横芝光町	15	1.5
	その他	418	41.8
合計	1000	100.0	

2. 調査結果

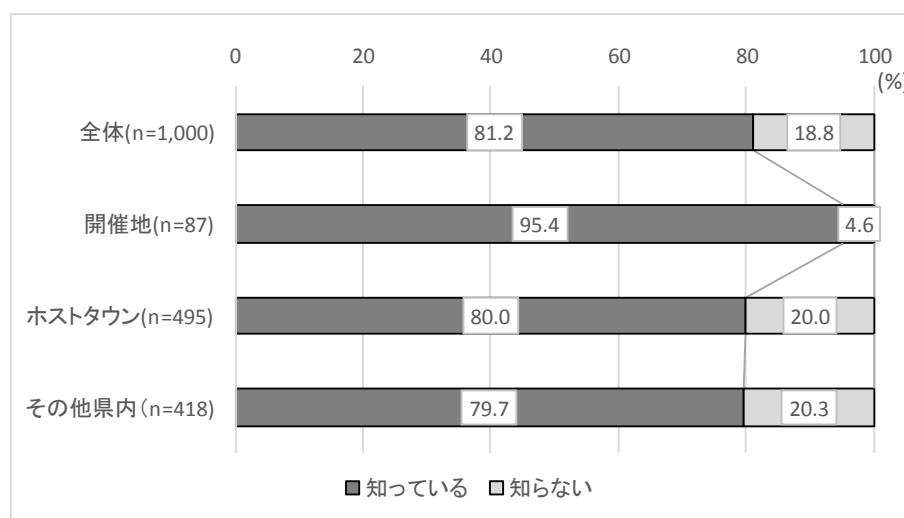
① 県内でのオリ・パラ競技開催の認知度

千葉県において東京オリ・パラ競技が開催されることに対する認知度をみると、「知っている」が8割強（81.2%）、「知らない」が2割弱（18.8%）となった。

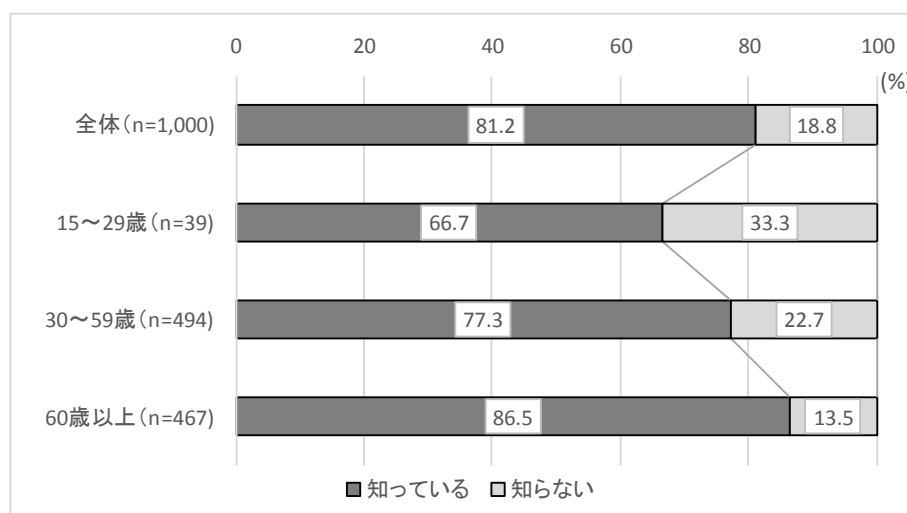
居住地別¹（開催地、ホストタウン、その他県内市町村）にみると、「知っている」と回答した居住地の割合は、「開催地」（95.4%）が最も多く、次いで「ホストタウン」（80.0%）と「その他県内」（79.7%）が並んだ。

年齢別では、「60歳以上」（86.5%）が最も多いなど、年齢区分が高くなるほど、認知度が高い。

図表 1 千葉県におけるオリ・パラ開催の認知度（居住地別）



図表 2 千葉県におけるオリ・パラ開催の認知度（年齢別）



¹ 開催地：千葉市・一宮町
ホストタウン：市川市、船橋市、館山市、松戸市、佐倉市、成田市、印西市、旭市、市原市、流山市、浦安市、山武市、横芝光町

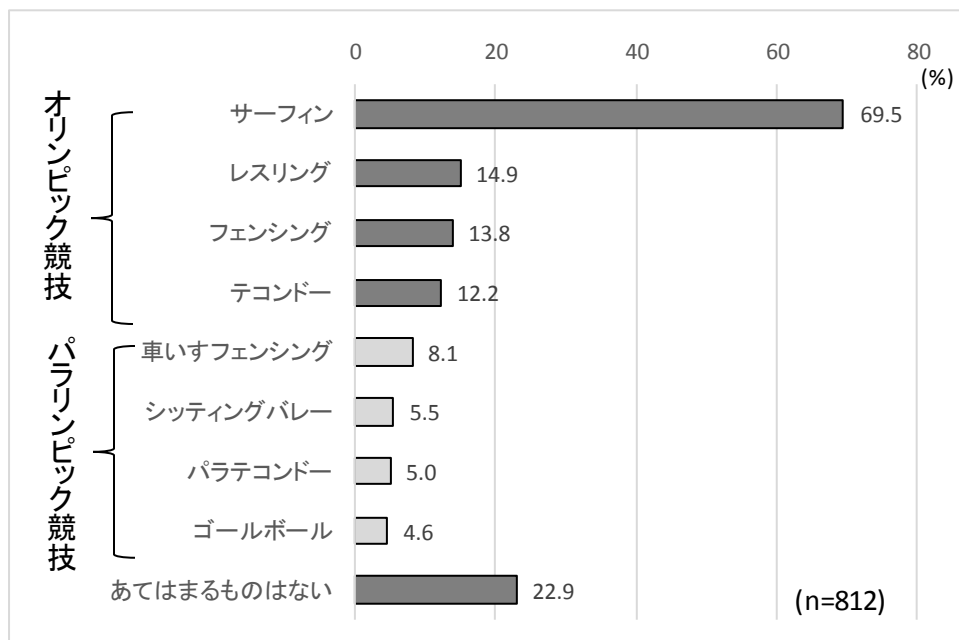
② 県内で開催される競技の認知度

県内開催を「知っている」と回答した人が認識している具体的な競技について伺ったところ、オリンピック競技の認知度が2桁以上であるのに対して、パラリンピック競技は1桁台に止まった。

オリンピック競技の中では、「サーフィン」(69.5%)の認知度が突出して高く、「レスリング」(14.9%)、「フェンシング」(13.8%)、「テコンドー」(12.2%)の3競技は10%台前半と大きな差がみられた。

パラリンピック競技では、「車いすフェンシング」(8.1%)、「シットイングバレー」(5.5%)、「パラテコンドー」(5.0%)、「ゴールボール」(4.6%)となった。

図表 3 県内開催を知っていた競技



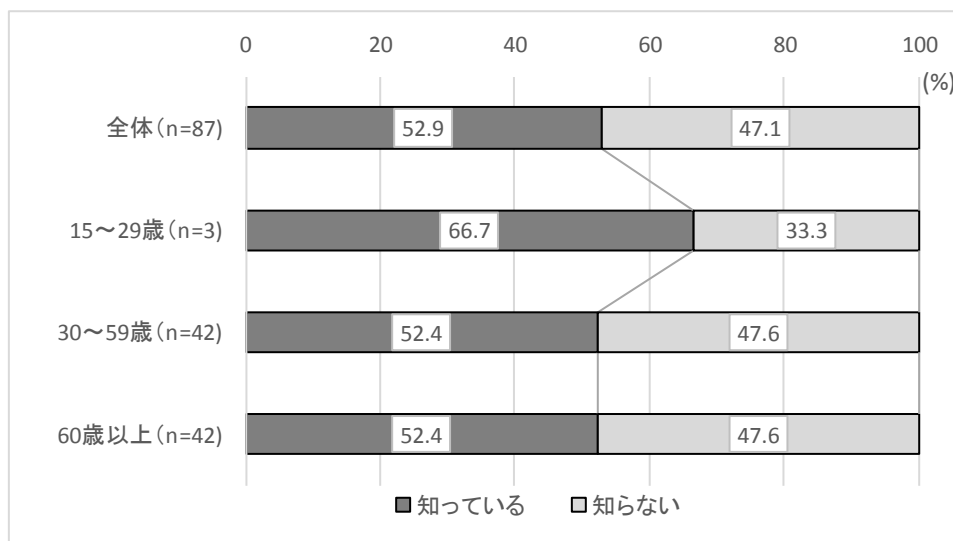
③ 開催地・ホストタウンの認知度

開催地（千葉市・一宮町）の住民における競技開催地としての認知度は、「知っている（52.9%）」、「知らない（47.1%）」が拮抗した。

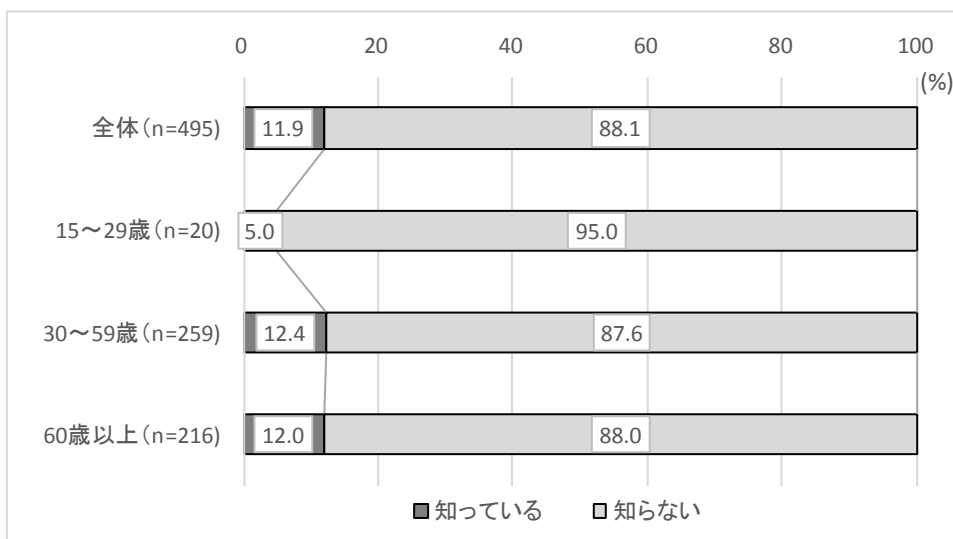
一方、ホストタウン登録自治体住民における、ホストタウンの認知度は、「知っている」が1割強（11.9%）に止まった。

年齢別にみると、サンプル数は少ないものの、オリ・パラ教育の差からか、若年層「15～29歳」の認知度が、開催地では高い（66.7%）一方、ホストタウンでは低い（5.0%）という特徴がみられた。

図表 4 開催地の認知度（年齢別）



図表 5 ホストタウンの認知度（年齢別）

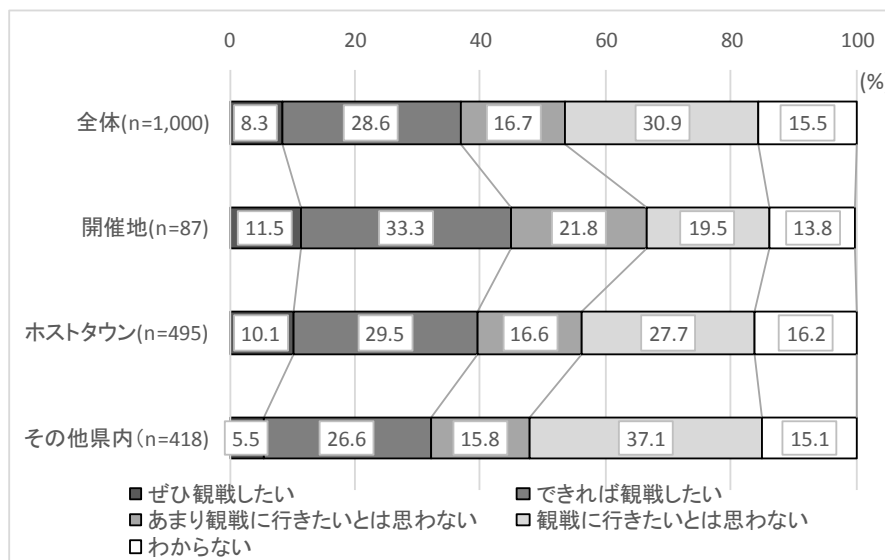


④ オリ・パラ競技の観戦意向

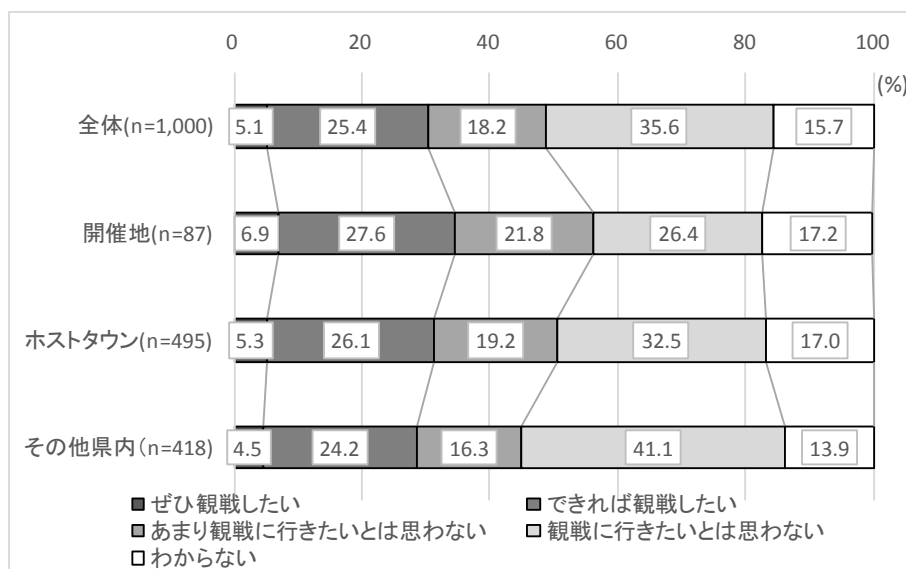
オリ・パラ開催期間中の観戦意向（全体）をみると、「観戦したい（ぜひ観戦したい＋できれば観戦したい）」と回答した割合は、オリンピック競技では約4割（8.3%＋28.6%）、パラリンピック競技では、3割（5.1%＋25.4%）となった。

居住地別にみると、「観戦したい（同）」と回答した割合は、オリ・パラ競技ともに、開催地が最も高く、次いでホストタウン、その他県内の順となった。

図表 6 オリンピック競技の観戦意向



図表 7 パラリンピック競技の観戦意向

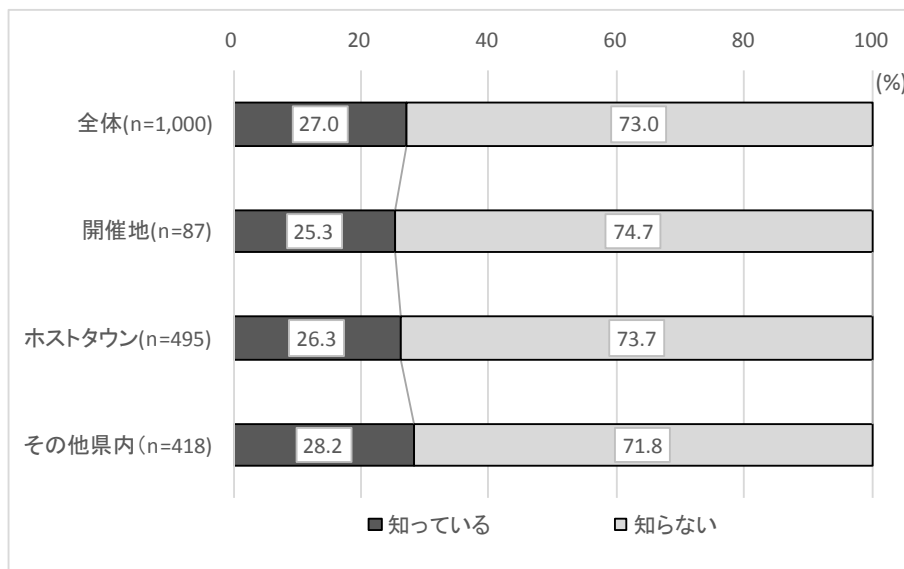


⑤ ボランティア募集の認知度

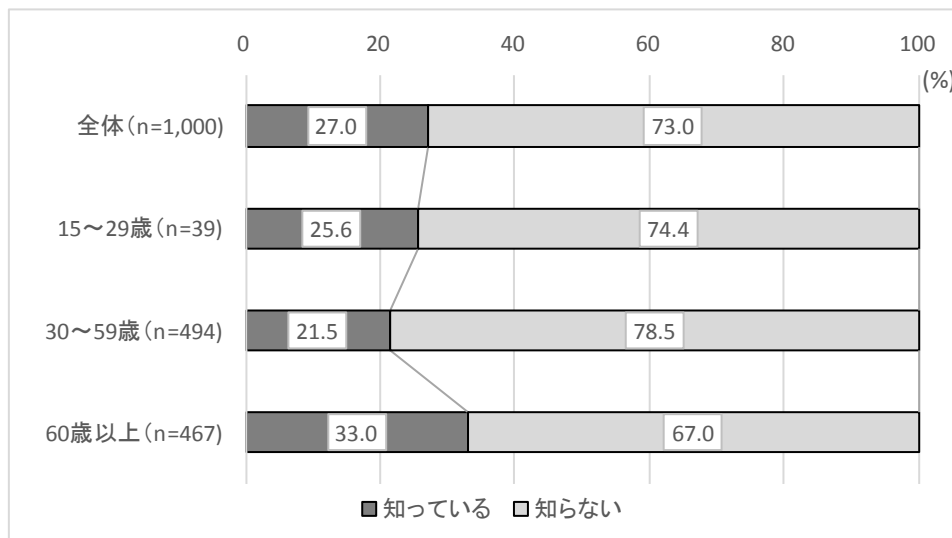
ボランティア募集の認知度をみると、「知っている」が約3割、「知らない」が7割となった。居住地別での認知度の差はほとんどみられなかった。

年齢別にみると、「60歳以上」が最も多く、3割を上回った。

図表 8 ボランティア募集の認知度（居住地別）



図表 9 ボランティア募集の認知度（年齢別）

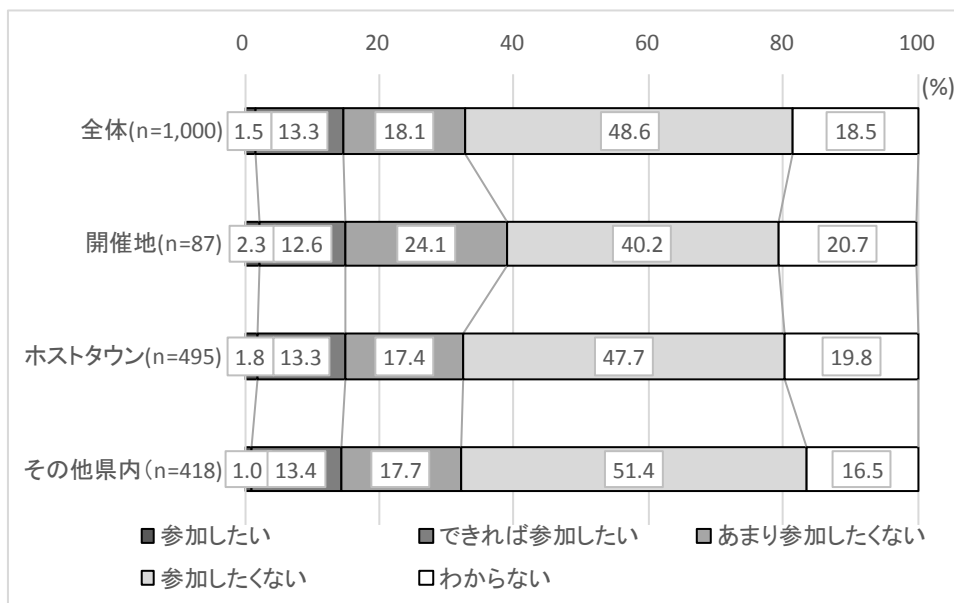


⑥ ボランティアとしての参加意向

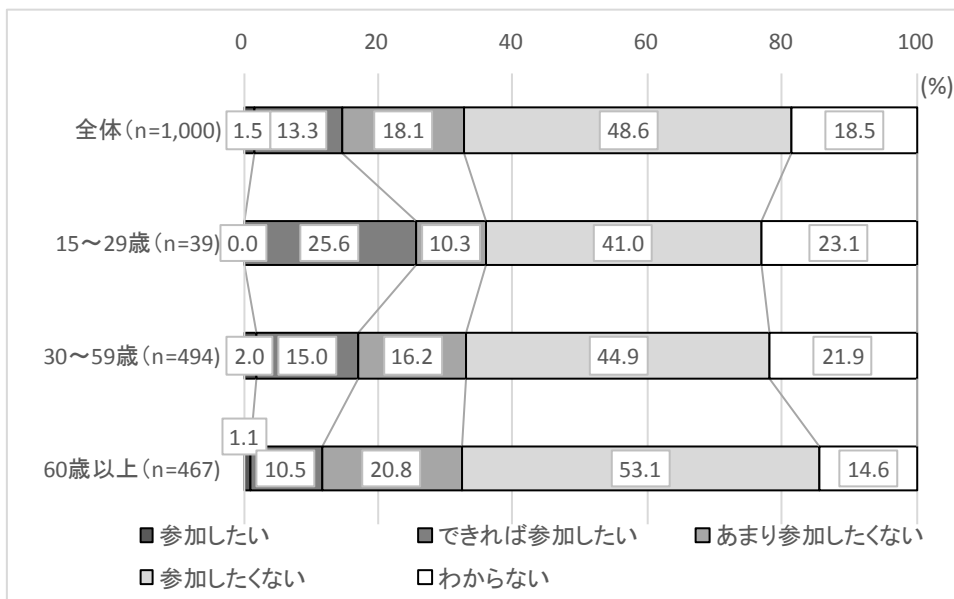
オリ・パラ開催期間中のボランティアとしての参加意向（全体）をみると、「参加したい（参加したい+できれば参加したい）」と回答した割合は約 15%（1.5%+13.3%）となった。

「参加したい（同）」と回答した割合は、居住地別では殆ど差がない一方、年齢別では 15～29 歳（0.0%+25.6%）が最も高い。

図表 10 ボランティアとしての参加意向（居住地別）



図表 11 ボランティアとしての参加意向（年齢別）

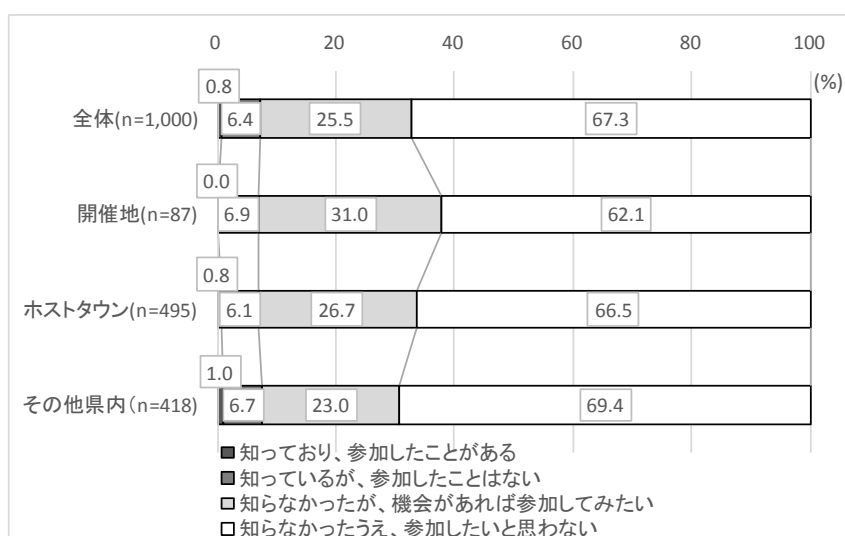


⑦ 「おもてなしCHIBAプロジェクト」²の認知度

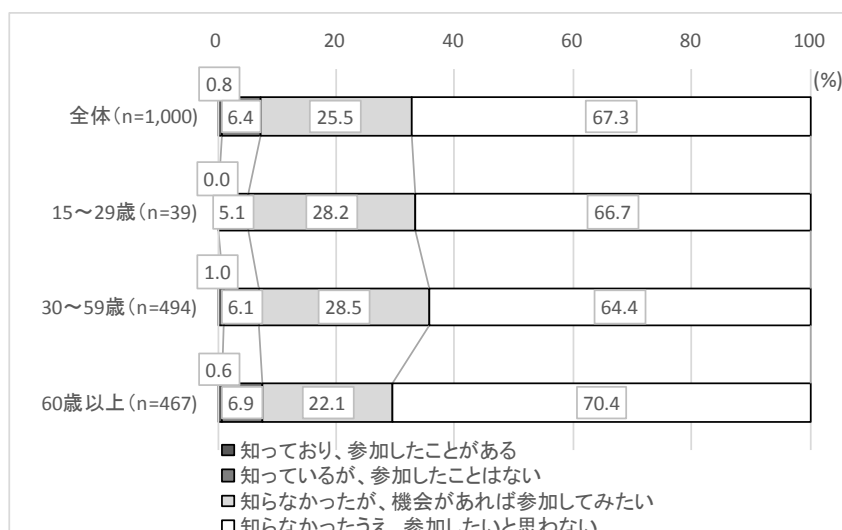
「おもてなしCHIBAプロジェクト」の認知度・参加状況をみると（全体）、「知らなかったうえ、参加したいと思わない」（67.3%）が最も多く、次いで「知らなかったが、機会があれば参加してみたい」（25.5%）となった。

居住地別、年齢別ともに「知らなかったうえ、参加したいと思わない」は6～7割を占め、「知っている（知っており、参加したことがある+知っているが、参加したことはない）」と回答した割合は1割未満にとどまった。

図表 12 「おもてなしCHIBAプロジェクト」の認知度（居住地別）



図表 13 「おもてなしCHIBAプロジェクト」の認知度（年齢別）



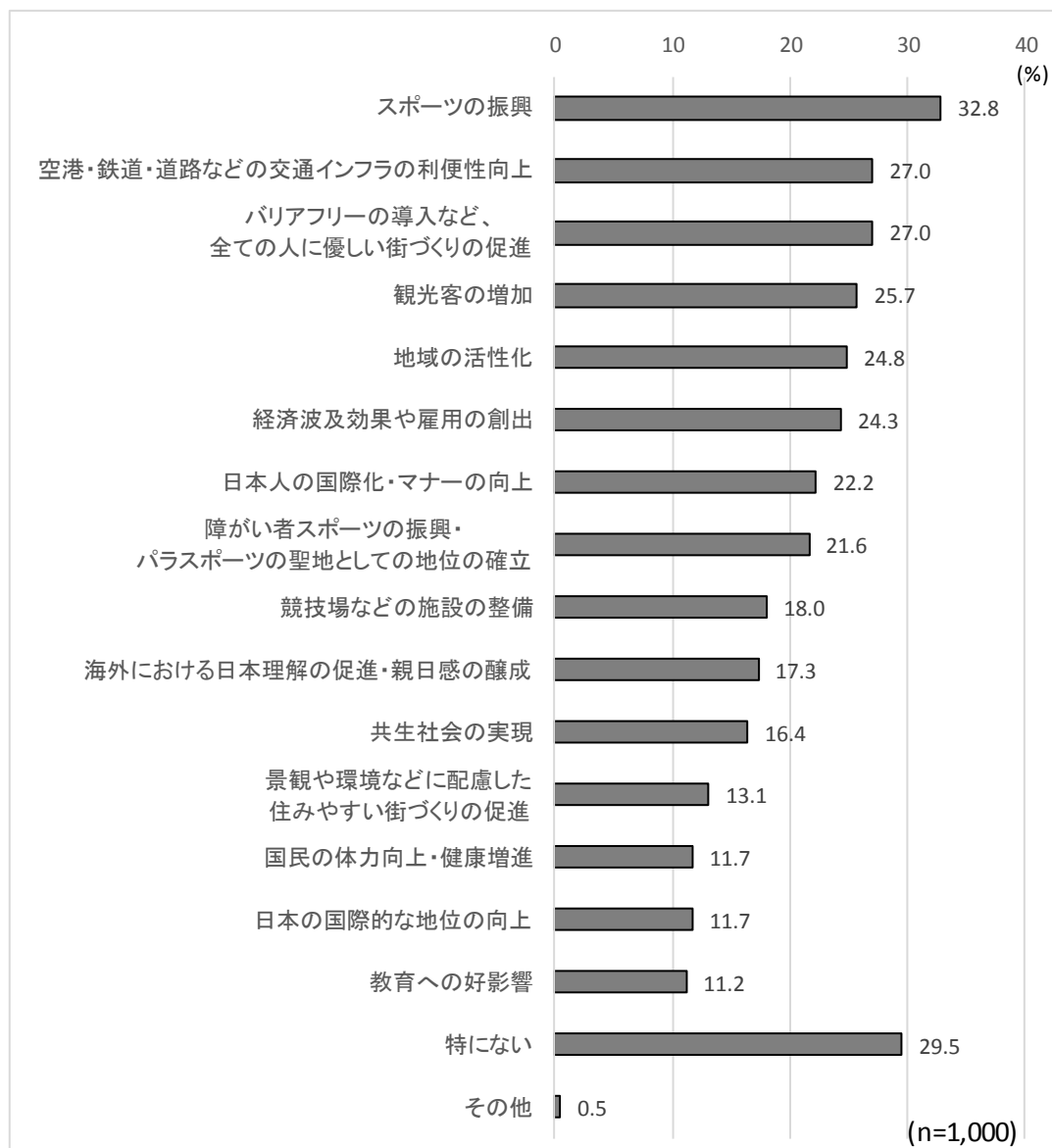
² 千葉県が実施する、東京オリンピック・パラリンピックに向けて県民の「おもてなし」の機運を高めるための運動（第1弾「ビーチ☆クリーン☆キャンペーン東京2020」、第2弾「ひまわりと笑顔で結ぶオリンピック」）

⑧ オリ・パラ開催後に期待する効果（レガシー）

オリ・パラ開催後に期待する効果を見ると、「スポーツの振興」の32.8%が最も多く、「空港・鉄道・道路などの交通インフラの利便性向上（27.0%）」、「バリアフリーの導入など、全ての人に優しい街づくりの促進（27.0%）」、「観光客の増加（25.7%）」、「地域の活性化（24.8%）」が続いた。

一方で、「特にない」と回答した先も3割（29.5%）を占め、レガシーを期待しない見方も少なくない。

図表 14 オリ・パラ開催後に期待する効果（レガシー）



以上